



Plan Do Check Action

「学校で教え、育む」

朝日町保小中一貫教育校
朝日町立さみさと小学校
校長 竹 内 静

令和6年度が間もなく終わろうとしている。学校の1年は、4月に始まり、3月に終わる。毎年、様々な行事等が繰り返されているが、一度として同じ1年はない。林光氏作詞の「がっこう」の歌詞には、「たくさんわたしたちを見守って たくさんわたしたちを見送って がっこうはここにいる」という一節がある。学校に集まる教員と児童・生徒は、毎年、変わり続け、そこでは、多くの学びが生まれる。

教育とは、「教え、育てること」である。学校は、未来を担う、かけがえのない子供たちが集団で互いに学び合う場である。そして、私たち教員は、子供たち一人一人に各教科等において育成を目指す資質・能力等を育むために、熱意をもって、授業を通して指導と支援をしている。子供たちが「分かった」「できた」と話す授業を目指す中で、「今日、学校に来てよかったな」「明日も楽しみだな」などと聞くことは、この上ない喜びである。しかし、登校することに不安を感じるなど、登校することが難しい子供がおり、対面での学習だけでは対応しきれない状況も増えてきている。ますます多様化する子供たち一人一人が、安心して学ぶことができるように教員の資質向上がさらに求められている。子供たちが、新たに知ることの楽しさや喜び等を感じることができるよう、教員自身が自分の希望や目標に向かって日々学んでいくことが大切なのは、言うまでもない。そして、「なぜ勉強するの」と問われたときに、子供たち自身が、自ら学ぼうと心を奮い立たせることができるように「自分の可能性を広げるため」「夢や目標の実現につなげるため」など、一人一人に応じて自信をもって返答することができる教員でありたいものである。

子供は常に成長し、変化している。私たち教員は、「同じ視点で子供を捉えてしまい、その成長や変化を見逃してしまっていないか」と、常に自問自答しながら視点を変えることで、これまで見ていなかった子供の新たな一面を見ることができ。また、そうすることで、子供がどのようなことを考えているのかを理解することにもつながる。「みる」には、「見る」「観る」「視る」「診る」「看る」があり、ご存じのとおり、それぞれにも意味がある。私たちが、子供たちを指導する際には、様々な「みる」を行っている。「富山県幼・小・中学校教育指導の重点 ― 一人一人を見つめ、育てる ―」には、「学習は、本来、一人一人に成立することを前提とするものである。指導に当たっては、一人一人のものの見方、考え方、感じ方、願いを大切にしなければならない。一人一人とは、独自の個性をもった、かけがえのない存在であり、みんなの中にある一人である。したがって、一人を見つめることは、他の多くの一人一人とのつながりを見つめることである。見つめるとは、一人一人の活動や学習の軌跡を継続的に見続け、教育的観点から捉え直すことである。育てるとは、見つめ、捉え直したことを基にして、一人一人の可能性を探りだし、個々にとっての望ましい方向を求め、個に応じた指導の手立てを講ずることである。」と記載されている。高度な技術がどれだけ発展した世の中になったとしても、教員が子供たち一人一人を見つめ、育てることは変わらず、これからも続いていく。私たちは、曇りのない眼で様々な角度から目の前にいる子供たち一人一人を見て、心に寄り添っていく必要がある。そのために、常に自ら研鑽を重ね、教員としての資質向上への努力を惜しまないでいきたい。そして、教員がチームとして、学校で子供たちを教え、育んでいきたい。



朝日町教育委員会派遣内地留学を終えて



「学び続ける」

あさひ野小学校 教諭 松井 和貴子

3か月の内地留学は、自分のこれまでの授業について見
つめ直し、これからの学びについて考える貴重な機会とな
りました。私が東京学芸大学の高橋純教授のもとで学びたい
と考えたきっかけは、昨年度の小学校教育課程研究会で
の国語科の授業でした。子供一人一人が自分の課題をもち、
自ら学ぶためにどのような授業にしたらよいか、部会の先
生方と話し合ったり指導主事の先生に教わったりしながら

取り組んでいくうちに、今までの授業では見られなかった子供たちの姿が見えてきました。

研修中は高橋先生の講義や講演会、東京都や神奈川県、愛知県の学校の訪問研修等に参加し、これからの授業のあり方や心構えについて考える機会が多くなりました。特に印象に残ったことは、「学習指導要領では生きる力を育むことが大きな目標であり、そのための手段として1人1台端末や自己調整等の学びがある」という話です。これまでの自分は「ICTの効果的な活用」や「自己調整を取り入れた授業」のように、ツールをどう使うかに重点を置いていたことに気付き、「大きな目標から考えていくこと」の必要性を感じました。また、実際の授業を参観し、学級の子供全員が「頭フル回転」で学んでいる姿を見て、「子供一人一人を主語とした学び」の素晴らしさを感じました。

この3か月間は、自分自身が「学ぶ楽しさ」を感じることができ、子供だけでなく私たち大人も学び続けなければいけないと実感しました。現在、あさひ野小学校でも先生方それぞれが子供一人一人の成長を目指した授業に取り組み、情報の共有を行っています。先生方から学ぶことがたくさんあり、一緒に取り組む仲間の存在の大きさを感じながら日々過ごしています。新しいもの・新しいことがどんどん増え、先が見通しにくい時代において、これからも新しいことに自ら取り組み、学び続けていきたいです。

富山大学大学院教職実践開発研究科派遣教員研修を終えて

「教職大学院での学び」

朝日町立朝日中学校

教諭 橋 紀子

この度、私は富山大学大学院教職実践開発研究科の第8期生として学ぶ機会をいただきました。1年次では、私を含む10名の現職教員と6名のストレートマスター（学部新卒学生）が、校種や経験の違いを超えて共に学び合い、学校現場が直面する教育課題



について議論を重ねた。授業では、院生が主体となってテーマを設定し、プレゼンテーションやグループディスカッション等を行うことで、高度な実践力や課題解決力を養った。現場での経験と理論を往還させながら、自らの教育実践を振り返り、アップデートする貴重な機会となった。また、授業以外でも院生同士が情報交換を行い、自主的に研修に参加するなど、主体的に学び合うことで

教師としての資質を高めることができた。こうした時間を通して絆も深まった。悩みを相談し合える大切な仲間に出会えたことに感謝している。

私自身の研究テーマは「中学校英語科における主体的な学びを引き出す協働学習に関する実践研究」である。英語の得意・不得意を問わず、すべての生徒が活動に没頭し、主体的に学ぶことができる授業づくりを目指し、協働学習の理論と先行研究の知見を活用した実践を行った。その結果、生徒の授業への参加意欲が向上し、英語学習に対する肯定的な態度の醸成につながる具体的な手法や示唆を得ることができた。例えば、研究成果として得られたことは、協働学習を効果的に機能させるためには、単なるグループ活動にとどまらず、教師が生徒の学習状況を的確に把握し、適切なタイミングでの「足場かけ」が不可欠であることや、対話を深めながら各々の意見を共有することで学ぶ楽しさを実感し、学習内容の理解が促進されることである。さらに、継続的な授業の振り返りによって自己調整力が高まり、主体的な学習態度の育成につながることも大切であることが明らかになった。

この2年間の学びや経験を、今後は教育現場に還元し、実践の中でさらに磨きをかけていきたい。また、本研究で得られた知見や今後の課題についても、引き続き探究を深めていく所存である。そして、富山のスクールリーダーとしての自覚と使命をもち、子供たちの成長に寄り添いながら教育に携わっていきたい。

3学期の研修会から

小中生徒指導研修会② 1月17日(金)

講師：富山県総合教育センター 教育相談部 子ども育成担当
研究主事 大野 沙奈恵 先生、伊東 史子 先生

第2回生徒指導研修会を開きました。昨年度に引き続き「ケース会議」のあり方について、グループワークを中心に学びました。今回の研修会には、各校生徒指導主事、カウンセリング指導員、S S Wの先生方と各校から数名ずつ参加いただきました。「エピソードプロセスを用いたケース会議」の演習では、チームによる支援のあり方について学ぶことができました。小学校の事例をもとにしたケース会議でしたが、それぞれの立場でどういう支援ができるかということ具体的に考え、中学校としての働きかけといったことについてもお話しいただけたことは、小中のチームで行った強みであると感じました。「先生方の発言が、その子供ができることに目を向けたものが多く、そこから支援方法についてもたくさん考えることができている素晴らしい」と講師の先生からもほめていただきました。この「ケース会議」の手法を体験した先生方が校内でも活用できるようにと2年間同じ内容で研修会を行いました。朝日町の子供たち一人一人の悩みや困り感に寄り添った支援ができるよう、気軽に情報共有、意見交換ができるよう、この研修会で学んだことを各校でも広めていきたいです。



「問いが持つ力」に関する研修会 1月31日(金)

問いの生成ワークショップ

～子供たちにとって、そして、私たちにとって「問い」の価値とは～

講師：株式会社 教育と探求社 学校事業本部

本部長補佐・学校推進チーム マネージャー 佐原 大河 氏



複雑性を増す社会やA Iの発展に伴い、好奇心から問いをもって生きることがますます重要になっています。その中で、授業において子供たちは、これまで以上に「知識を受け取るだけでなく、自ら考え、知を探し求める姿勢」が求められます。探究の原動力には様々な要素が考えられますが、その中でも「問い」は重要な位置を占めています。「問い」の可能性を考え、その価値を言語化することで、授業の質的向上を目指すことをねらいとしてこの研修会を設定しました。

【アンケートから】

- ・学力向上の土台となるのは、やはり学級経営であると改めて実感した。
- ・人とつながれず寂しい思いをしている子供が多い、とお聞きし、納得するとともに、子供たちにとって本当に大切なことは何なのか、優先順位を間違わないようにしていきたい。
- ・生徒との関わり方を考えさせられた。自分が時代に合わせてアップデートする必要性を感じた。

一年間、ありがとうございました！

令和6年度朝日町小中学校研修会 委員・調査員のみなさん

<p>◇朝日町教育センター運営委員</p> <p>小中学校長会 代表 竹内 静</p> <p>小学校 代表 大森 祐子</p> <p>中学校 代表 川田 彰</p> <p>教頭会 代表 上田 勝</p> <p>教務主任会 代表 鍋島 朋子</p>	<p>◇郷土教育教材開発研究調査員</p> <p>あさひ野小学校 坂口 薫 (委員長)</p> <p>あさひ野小学校 大藏 慶子</p> <p>さみさと小学校 鍋島三彩子 屋木 湧基</p> <p>朝日中学校 舟本 祐</p> <p>コーディネーター 水野瑠美子</p>
<p>◇情報教育研究調査員</p> <p>朝日中学校 上田 勝 (委員長)</p> <p>あさひ野小学校 沼田 峻 畑 保奈美</p> <p>さみさと小学校 高澤 伸治 稲毛 渚</p> <p>朝日中学校 岩崎 将展 吉田亜沙奈</p>	<p>◇朝日町小中学校児童生徒作品展実行委員</p> <p>さみさと小学校 竹内 静 (委員長)</p> <p>あさひ野小学校 松井和貴子</p> <p>さみさと小学校 中島 亮太</p> <p>朝日中学校 岩田 寿浩 太田 幹人</p>
<p>◇学力向上推進委員</p> <p>さみさと小学校 横山亜希子 (委員長)</p> <p>あさひ野小学校 上野 裕美</p> <p>さみさと小学校 鍋島 朋子</p> <p>朝日中学校 山田 智徳</p>	<p>発行：朝日町教育センター</p> <p>〒939-0743 富山県下新川郡朝日町道下 1053-1</p> <p>TEL/FAX 0765(83)0279</p> <p>Mail asahi-ec@tym.ed.jp</p> <p>https://center.asahischool.jp/</p>